

# 昇天祭（木曜日） 聖体礼儀

聖体礼儀の始まりから、大連祷まで、通常と同じ <P1 赤本 P1>

## 【第一アンティフォン】第 46 聖詠、第二調。

(ソロ) 救世主よ、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

第一句 萬民よ、手を拍ち、歎の聲を以て神に呼べ。

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

第二句 蓋至上の主は畏るべくして、全地を治むる大王なり。

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

第三句 彼は諸民を我等に従はせ、諸族を我等の足下に従はせたり。

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

第四句 神は呼ぶ聲に伴はれて上り、主は喇叭の聲に伴はれて升れり。

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

(ソロ) 光栄は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

※単音の場合はソプラノのメロディ

## 第1アンティフォン 附唱

The musical score consists of two staves. The upper staff is a vocal line in G major (one flat) with a 4/4 time signature. The lower staff is a piano accompaniment. The lyrics are written below the vocal line: 救世主や 生神女の祈禱によつて、我等を救いたまえ. The score includes a repeat sign at the end.

【小連祷】(いつもと同じ) <P3 赤本 P4 >

【第二アンティフォン】第四十七聖詠、第二調

(ソロ) 光栄の中に升起し神の子よ、我等爾に「アリルイヤ」を献る者を救ひ給へ。

♪(繰り返し) 光栄の中に升起し神の子よ、我等爾に「アリルイヤ」を献る者を救ひ給へ。

第一句 主は大にして、我が神の城邑に、其聖山に讃揚せらる。

♪(繰り返し) 光栄の中に升起し神の子よ、我等爾に「アリルイヤ」を献る者を救ひ給へ。

第二句 シオン山は美しき高處にして、其北方に大王の城邑あり。

♪(繰り返し) 光栄の中に升起し神の子よ、我等爾に「アリルイヤ」を献る者を救ひ給へ。

第三句 神は其住所に於て防ぎ護る者として知らる。

♪(繰り返し) 光栄の中に升起し神の子よ、我等爾に「アリルイヤ」を献る者を救ひ給へ。

第四句 蓋視よ、諸王集まりて、偕に過ぎ去れり。

♪(繰り返し) 光栄の中に升起し神の子よ、我等爾に「アリルイヤ」を献る者を救ひ給へ。

※単音の場合はソプラノのメロディ

第2アンティフォン 附唱

光 栄のうちに 昇りし かみの子よ

我等爾に アリルイヤを歌うものを 救い たまえ

続いて

「光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン」

「神の独生の子ならびに言よ…」 <P3-4、赤本 P 5-6>

第3 倡和詞、第48 聖詠、第4 調。

第一句 萬民之を聴け、全地に居る者皆之に耳を傾けよ。

トロバリ

**ハリストス我等の神よ、爾は光栄の中に天に升起、聖神°を遣すを約して、門徒を喜ばしめ給へり、彼等爾の祝福に依りて、爾が神の子、世界の贖罪主たるを確かめられしに因る。**

第二句 我が口は睿智を出し、我が心の思は知識を出さん。

**ハリストス我等の神よ**

第三句 我耳を傾けて比喩を聴き、琴を以て我が隠語を解かん。

**ハリストス我等の神よ**

第四句 我が患難の日、我を迫害する者の悪我を環る時、我何ぞ懼れん。

**ハリストス我等の神よ**

ハリストス我等のかみよ 爾は光栄のうちに 天にのぼり  
聖神を遣わすを やくして 門徒を喜ばしめ たまえり  
彼ら爾の 祝福によりて 爾が かみの子  
世界の贖罪主たるを 確かめられしに よる

聖入の句 神は呼ぶ聲に伴はれて升起、主は喇叭の聲に伴はれて升れり。

【トロバリ】【コンダク】

トロバリ (第3 アンティフォンと同じ)

ハリストス我等の神よ、爾は光栄の中に天に升起、聖神°を遣すを約して、門徒を喜ばしめ給へり、彼等爾の祝福に依りて、爾が神の子、世界の贖罪主たるを確かめられしに因る。(同上)

光栄は父と子と聖神に帰す、 今も何時も世々にアミン

コンダク 第六調

ハリストス我等の神よ、爾は我等に於ける定制を成し畢へて、地の物を天に合せて、光栄の中に升りたれども、何處よりも離れざりき、乃別るるなく留まりて、爾を愛する者に呼ぶ、我爾等と偕にす、人の爾等に敵するなし。

ハリストス 我等の かみよ 爾は我等における 定制を  
成し おえて 地のものを天に 合わせて  
光栄のうちに 昇りたれども 何處よりも 離れざりき  
乃ち 別るるなくとどまりて 爾を 愛する者に 呼ぶ  
我、爾等とともに す 人の 爾等に てきする なし

【主や敬虔なる者】【聖三祝文】 < P10 赤本 P14 >

【ポロキメン】 第7調

神よ、願はくは爾は諸天の上に挙げられ、爾の光栄は全地を蔽はん。

句 我が心備れり、神よ、我が心備れり、我歌ひて讚栄せん。

ポロキメン 7調 Znamenie  
かみよ 願わくは なんじは 諸天の上に 挙げられ  
爾の光栄は 全地を 覆 -わん

### 【聖使徒行実の読み】 1:1~12

フェオフィルよ、我第一の書を作りて、凡そイエスの始めて行ひし所、誨へし所を録して、其選びたる使徒に、聖神に因りて、命を降して、天に升起し日に迄れり。

彼は苦を受けし後、多くの確證を以て、彼等の前に己の活くるを視し、四十日の間彼等に現れて、神の國の事を語れり。遂に彼等を集めて、之に命じて曰へり、イエエルサリムを離れずして、爾等が我に聞きし所の、父の許約せし者を待て。

蓋イオアンは水を以て洗を授けたり、爾等は日久しからずして、聖神に由りて洗を受けん。是に於て彼等集りて、彼に問ひて曰へり、主よ、爾は此の時に於てイズライリの國を興すか。彼は之に謂へり、父が己の権内に置きし時及び期は爾等の知るべき所に非ず。

然れども聖神の爾等に臨まん時、爾等能力を受けて、イエエルサリム、全イウデヤ、サマリヤ、及び地の極に至るまで、我が為に證者と為らん。此を言ひて後、彼等の目の前に擧れり、雲彼を接けて、彼等に見えざらしめたり。其升れる時、彼等天を仰ぎたるに、視よ、二人白衣にして彼等の前に立ちて曰へり、ガリレヤの人よ、何ぞ天を仰ぎて立てる、爾等より天に升起し此のイエスは、爾等が其天に升るを見し如く、是くの如く復来らん。

### 【アレルイヤ】 第2調

神は呼ぶ聲に伴はれて升起、主は喇叭の聲に伴はれて升れり。

句 萬民よ、手を拍ち、歡の聲を以て神に呼べ。



<P16 赤本 P17>

### 【福音經】 はルカ 20:36~末節。

彼の時イエス死より復活して其門徒の中に立ちて曰へり、爾等に平安。彼等驚き且懼れて見る所は神なりと意へり。イエス彼等に謂へり、何ぞ懼れ惑ふ、胡為れぞ此の意は爾等の心に起れる。我が手我が足を視よ。是我自なり、我に捫りて視よ、蓋神には骨肉なし、其我に有るを見るが如し。

此を言ひて、手足を彼等に示せり。彼等喜に因りて、猶未だ信せず、且異める時、彼曰へり、此に食ふべき物あるか。彼等は炙りたる魚一片と蜜房とを彼に與へたれば、取りて、彼等の前に食へり。又彼等に謂へり、我猶爾等と偕に在りし時、爾等に語りて、モイセイの律法、諸預言者及び聖詠に、我を指して録されし事、皆應ふべしと云ひしは、乃是なり。

其時彼等の智識を啓きて、聖書を悟らしめたり。又彼等に謂へり、斯く録されたり、而して斯くハリストスは苦を受け、第三日に死より復活すべかりき、且其名に因りて、悔改し諸罪の赦とは、イエエルサリムより始めて、民に傳へらるべきなり。

爾等は此等の事の證者なり。視よ、我は我が父の許約せし者を爾等に遣さん、爾等イエエルサリムの城に居りて、上より能力を衣するに迄れ。イエス彼等を外に率ゐて、ウィファニヤに至り、手を挙げて彼等に祝福せり。祝福する時、彼等を離れ、挙げられて、天に升れり。

彼等之を拝し、大に喜びて、イエエルサリムに帰り、恒に殿に在りて、神を頌美祝讚せり、「アミン」。

【重連禱】【ヘルビム】【増連禱】【信経】【アナフォラ】通常どおり<P17-27 赤本 P 17-28>

「常に福にして」に代へて「イルモス第9歌頌、爾悟り難く解き難く神の母と為り云々」

第9歌頌

我がたましいよ 地より天に昇りしハリストス  
いのちをたまう 主---を 讃めあげよ  
なんじ悟り難く解きがたく かみのははとな り  
ときのうちにおいて 時によらざる 主 を  
言いがたく 生みしものを われら 信者は  
こころを <sup>ひと</sup>つにして あがめ 讃 - む

【万民をも】【増連禱】【天主経】【聖なる者は聖なる人に】通常どおり<P29-32 P 32-36>

【領聖詞】 第 46 聖詠

神は呼ぶ声に伴はれて升り、主はラツパの声に伴はれて升れり。「ア ril イヤ」。三次

領聖詞

かみは 呼ぶ声に 伴われて の- ぼり

主は ラツパの こえに ともなわれて の ぼ れり

ア ril イヤ ア ril イヤ ア ril --- イヤ

第 46 聖詠

萬民よ、手を拍ち、歡びの声を以て神に呼べ、

蓋 至上の主は畏るべくして、全地を治むる大王なり、

彼は諸民を我等に従わせ、諸族を我等の足下に従わせたり、

主は我等の為に嗣業を選べり、すなわち其の愛する所のイアコフの榮えなり。

神は呼ぶ声に伴われて升り、主はラツパの声に伴われて升れり。

我が神に歌い歌えよ、我が王に歌い歌えよ、

蓋神は全地の王なり、皆知恵をもって歌えよ。

神は諸民の王となれり、神は其の聖なる宝座に坐せり。

諸民の牧拍はアウラムの神の民に聚まれり、蓋地の盾は神にあり、彼は其の上に高く挙げられたり。

【領聖】「既に真の光」以下いつもと同じ <P34- 赤本 P 35 >